<エントリーシート> ※事務局記入欄 No.：A－ 18	部門　平成３０年度 カリキュラム・マネジメント 指導者養成研修	学校名・氏名 神奈川県厚木市立依知南小学校 川上美穂
	活動名　教育課程の評価改善～評価と改善の一体化の工夫～	

課題の設定：

本校は教育課程の編成を校長のリーダーシップの下全教職員で行っている。教育課程を編成するにあたり，研修を重ねることで新学習指導要領について理解を深めたり，全教職員で協議する場を設定したりしている。しかし，課題を改善につなげ，次年度の教育課程を編成していくという過程に課題が残った。そこで，教育課程の評価・改善を次年度の計画につなげることに重点をおき取り組んだ。

方針・計画：

仮説① 評価(C)・改善(A)をひとまとまりで考えることで，PDCA を効果的にまわすことができるのではないか。
仮説② 教育課程編成や学校評価のスケジュールや方法を見直すことで，ひとまとまりに考えた評価(C)・改善(A)を教育課程編成に効果的に活かすことができるのではないか。

活動内容：

○教育課程編成方法の工夫・・・評価(C)・改善(A)をひとまとまりで考えることで，PDCA を効果的にまわす
・教育課程の評価・改善の一体化→「評価したらすぐに改善案を考え，次に活かす」
・教育課程の評価点・改善点の視える化
→シールや付箋の使用。拡大した行事予定を会議室全面に掲示。評価の整理。
・教育課程編成会議の内容及び方法の工夫
→全体，学年，学校運営組織の３段階での協議。個で考える時間の確保。
○教育課程編成会議や学校評価のスケジュールや方法の見直し

活動の成果：

《教職員の声》
○教育課程編成会議では，全体→学年→学校運営組織→個と段階をふんで協議することで，行事について成果と課題を考えることができた。
○一度に１年間を評価するので，来年度の年間の見通しをもって改善案を考えることができた。（１年間の評価の土台には，行事などが終わったらすぐに行う評価の時間での話し合いがある。）
○今までは教育課程について少々他人事に考えていたが，自分のこととして考えることができ勉強になった。
○協議をしたり，話し合ったり，立ち話をしたり，たくさんの先生方の考えを聴くことができ，自分たちの教育課程を創ることができた。
○学習指導要領を意識して読み，学ぶことが多かった。（教職員の意識改革・授業改善につながった。）

アピールポイント（アイディアや工夫）：

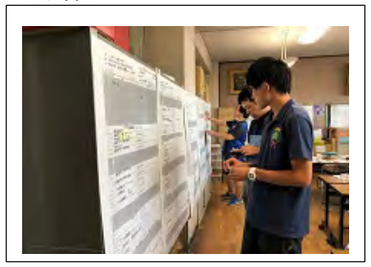
○評価・改善の一体化→「評価したらすぐに改善案を考え，次に活かす」
○評価・改善の視える化→評価の整理。全教職員で共通認識（共有）化。
○会議内容および方法の工夫→内容の精選。時間の有効活用。
○教職員の意識改革→学習指導要領を拠りどころとして考えることの習慣化。
○教職員の授業改善→単元のまとまりを意識し，知識・技能を活用させる授業のデザイン化（見通し）。

○教育課程編成方法の工夫・・・評価(C)・改善(A)をひとまとまりで考えることで PDCA を効果的にまわす

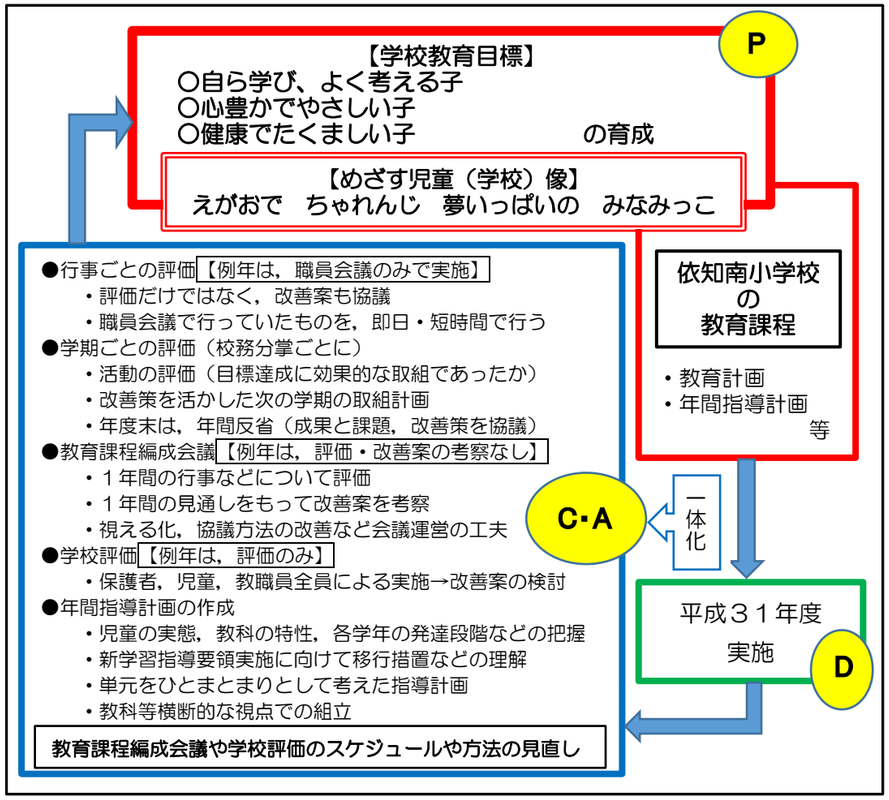
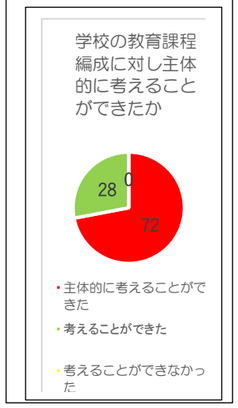
●教育課程の評価・改善の一体化
→「評価したらすぐに改善案を考え，次に活かす」

●教育課程の評価点・改善点の視える化
→シールや付箋の使用。拡大した行事予定を会議室全面に掲示。

●教育課程編成会議の内容及び方法の工夫
→全体，学年，学校運営組織の３段階での協議。個で考える時間の確保。



○教育課程編成会議や学校評価のスケジュールや方法の見直し



○教職員の声